

スタイル名  
抄録集 所属 (数字部分  
は上付き数字)

### 1. 抄録集執筆規定

スタイル名  
抄録集 見出し (大)

スタイル名  
抄録集 氏名 (数字部分  
は上付き数字、ルビ部分  
はメニューの書式→拡張  
書式→ルビ (サイズ 4))

中国四国リハビリ医学研究会<sup>1</sup>, 日本リハビリ医学会中国・四国地方会<sup>2</sup>

○医学<sup>い がく たろう</sup> 太郎<sup>1</sup>, 学会 一郎<sup>1</sup>, 研究 花子<sup>2</sup>

抄録集  
スタイル名  
見出し (小)

#### 【はじめに】

これは中国四国リハビリテーション医学研究会・日本リハビリテーション医学会中国四国・地方会の抄録集の見本となっている。

#### 【抄録集体裁】

B5判(縦)の用紙に記載し、本文は20字×40行の2段組をもって1枚とする。パソコンのワープロソフトを使用することが望ましく、文字の大きさを10ポイントに設定し、行間を1行、段の幅71.5mm、間隔7mm、余白は上26mm、下28mm、左右16mm空けて印字するものとする。

1. 表題、所属、著者、本文、図・表で構成されるものとする。
2. 本文は「はじめに」「対象と方法」「結果」「考察」「まとめ」「参考文献」のスタイルで構成するものとする。
3. 図・表を使用する場合、キャプションは表の場合は上部に、図の場合は下部に記す。

抄録集  
スタイル名  
箇条書き

#### 【文字】

原稿はひらがな・口語体・現代仮名遣い・常用漢字を用い、原則として日本語の学術用語は「日本医学会医学用語辞典(日本医学会)」「リハビリテーション医学用語集(日本リハビリテーション医学会)」に、英語は Index Medicus に従うものとする。

#### 【数字】

数字は算用数字を用いることとする。

#### 【数量】

数量はMKS(CGS)単位とし、mm, cm, m, ml, l, g, kg, cm<sup>2</sup>などを用いることとする。

#### 【文中の記載】

特定の機器・薬品名を本文中に記載するときは以下の規定に従うものとする。

1. 機器名：一般名(会社名、商品名)と表記する。〈表記例〉MRI(Siemens社製, Magnetom)
2. 薬品名：一般名(商品名 R)と表記する。〈表記例〉塩酸エペリゾン(ミオナール R)

#### 【略語】

略語を用いる場合は初出時にフルスペル、もしくは和訳も併記する。

#### 【文献】

文献は著者のアルファベット順または本文での引用順に記載し、通し番号をふるものと

抄録集  
スタイル名  
表キャプション

表1 表キャプション

	列1	列2	列3
行1	A	B	C



図1 図キャプション

表  
スタイル名  
(格子)

スタイル名  
抄録集 図キャプション

する。本文中の引用箇所には上付き数字で文献番号を記載するものとする。文献の省略名は原則として Index Medicus に従い、引用文献の全著者名を記載すること。和文誌の引用については略名は使用しない。単行本の引用に際しては、書名の他に editor (s) を記載し、また proceeding (s) ないし抄録引用の場合には、末尾に必ず (proc.) ないし (抄) と記載すること。英文論文中に日本語文献を引用する際、雑誌名は英語またはローマ字 (Japanese) で記載するものとする。本学会誌誌名変更に伴い、44 巻以降の掲載記事の引用については「Jpn J Rehabil Med」と記載することとする。

〈表記例〉

- 1) 秋庭保夫, 石田 暉, 村上惠一, 原沢 茂, 生越喬二: 上部脊髄損傷患者の消化管合併症に対する消化管機能検査と内視鏡検査による検討. リハビリテーション医学 1994 ; 31 : 178—183
- 2) 田谷勝夫, 石神重信: 職業リハビリテーション領域における RBMT の有用性. リハビリテーション医学 2001 ; 38 (Suppl) : S135
- 3) 三上真弘編: 下肢切断者リハビリテーション. 医歯薬出版, 東京, 1995
- 4) 浅山 滉: 腰部脊柱管狭窄症. 臨床リハビリテーション別冊実践リハ処方 (米本恭三, 石神重信, 浅山 滉, 木村彰男, 平澤泰介編). 医歯薬出版, 東京, 1996 ; pp188—192
- 5) Kreutzer JS, Marwitz JH, Seel R, Serio D : Validation of a neurobehavioral functioning inventory for adults with traumatic brain injury. Arch Phys Med Rehabil 1996 ; 77 : 116—124
- 6) Downey JA, Myers SJ, Gonzalez EG, Lieberman JS (eds) : The Physiological Basis of Rehabilitation Medicine. 2nd Ed, Butterworth-Heinemann, Boston,

1994

- 7) Liu M, Ishigami S : Toward future research. in Function-al Evaluation of Stroke Patients (ed by Chino N, Melvin JL) . Springer Verlag, Tokyo, 1996 ; pp 125—142
- 8) MacKay-Lyons MJ, Markides L : Exercise capacity early after stroke. Arch Phys Med Rehabil 2002 ; DOI : 10.1053/apmr.2002.36395 (注 : DOI : Digital Object Identifier . 文献は <http://dx.doi.org/10.1053/apmr.2002.36395> に掲載)
- 9) National Guideline Clearinghouse (NGC) . Public resources for evidence-based medicine clinical practice guidelines. Available from URL : <http://www.guideline.gov> (cited 2002 June 12)
- 10) 大臣官房統計情報部人口動態・保健統計課. 人口動態調査; 年次別にみた死因順位. Available from URL : <http://www.mhlw.go.jp/toukei/itiran/gaiyo/k-jinkou.html> (2002 年 6 月 12 日引用)
- 11) Clinical Evidence. 6 issue [Database on CD-ROM] London : BMJ Publishing Group ; 2001 (Updated biannually)